

診検病糖尿 県、民間に技術移転

14・15年度 鳴門病院で試験導入

徳島県は、産官学が連携して医療分野の新産業創出を目指す「徳島健康・医療クラスター事業」で開発した独自の糖尿病検診メニューを技術移転する。2

014、15年度に県鳴門病院で試験導入後、新たなビジネスモデルとして民間病院に普及させ、糖尿病死亡率全

期脱却を目指す。徳島大学病院が中心となり10年3月に開発した。自覚症状のない早期の動脈硬化を発見できる血管内皮機能(FMD)検査や遺伝子検査など最大11項目で糖尿

病の前兆を発見し、生活習慣の改善や治療方法を指導する。糖尿病に特化した検診は全国的にも珍しい。ただ、検診には県立徳大病院、とくしま産業振興機構がFMD検査装置1台を鳴門病

工業技術センターが開発したFMD検査装置など最新の医療機器や専門技術が必要。これまでは徳大病院で週1日、最大5人しか受けられなかった。県はクラスター事業の成果を普及させる第1弾として、鳴門病院に技術移転することにした。県は14年度当初予算案に検査装置の貸与費など740万円を計上した。(新居和人)